

他機関が実施する調査データ分析結果報告

(第 26 回長浜企業景況調査参考資料)

報告年月 令和 5 年 2 月

長浜商工会議所

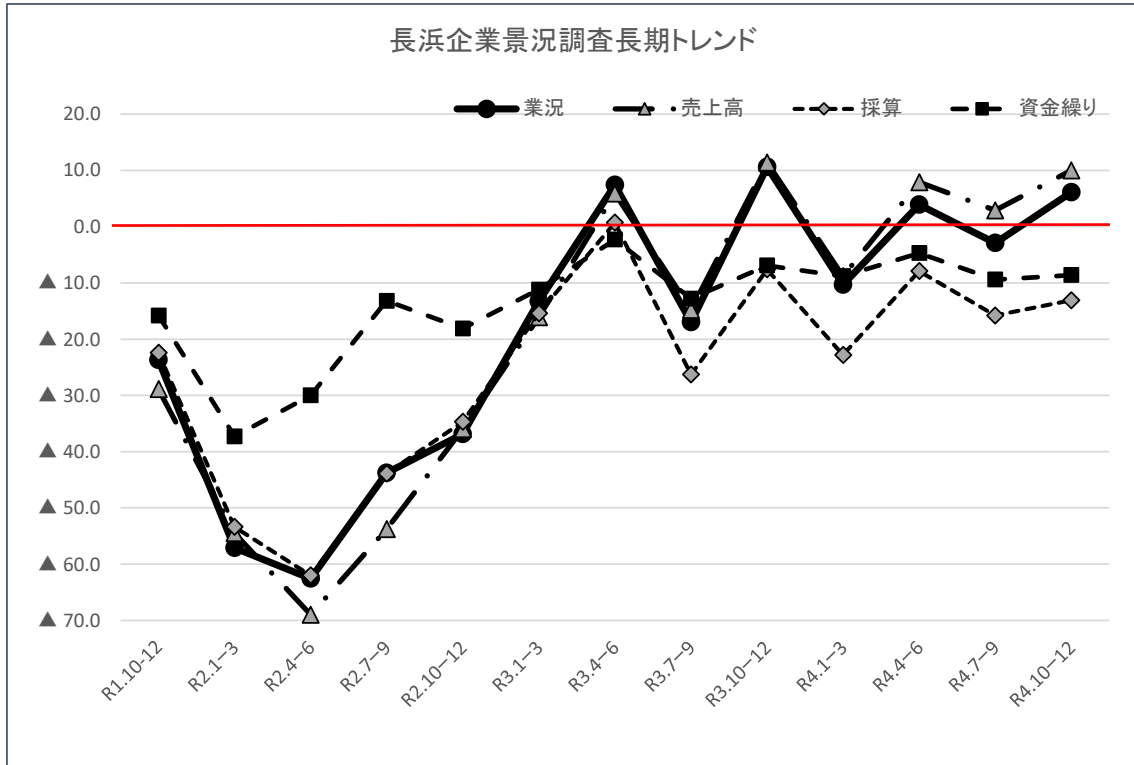
目 次

1. 長浜市の景況	
(1) 長浜企業景況調査…各種D I の長期トレンド	1
(2) 長浜企業景況調査…業種別・従業員D I の推移	1
2. 滋賀県の景況	
(1) 滋賀県景況調査報告（滋賀県商工政策課編）	2
(2) 県内経済概況（(株)しがぎん経済文化センター編）	7
(3) 中小企業アンケート結果（滋賀県信用保証協会編）	9
3. 近畿の景況	
(1) 地域経済動向（近畿）（内閣府編）	10
(2) 中小企業景況調査（近畿）（中小企業基盤整備機構編）	10
4. 全国の景況	
(1) 日銀短観（日本銀行）	11
(2) 中小企業景況調査（全国）（中小企業基盤整備機構編）	13

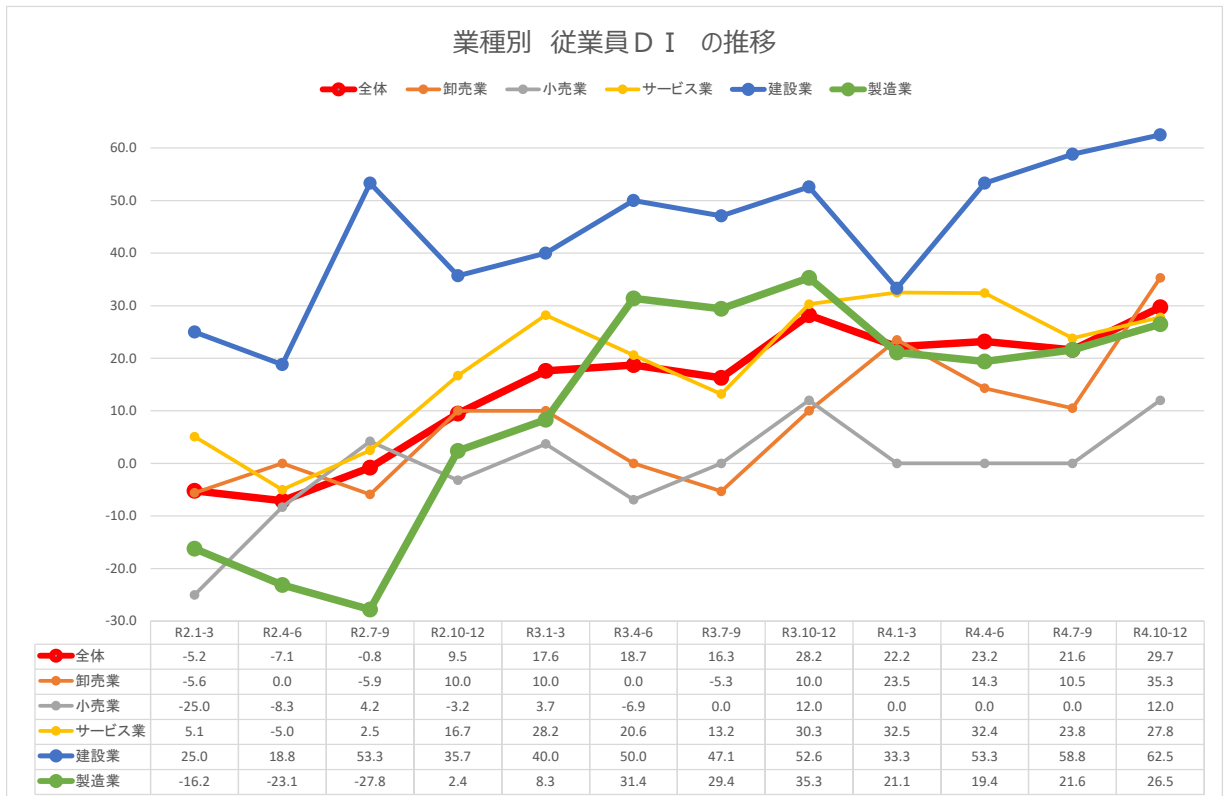
※本資料は上記資料をもとに作成したが、一部加筆変更部分が含まれる。

1. 長浜市の景況

(1) 長浜企業景況調査…各種D I の長期トレンド [前年同期比較]



(2) 長浜企業景況調査…業種別・従業員D I の推移 [前年同期比較]

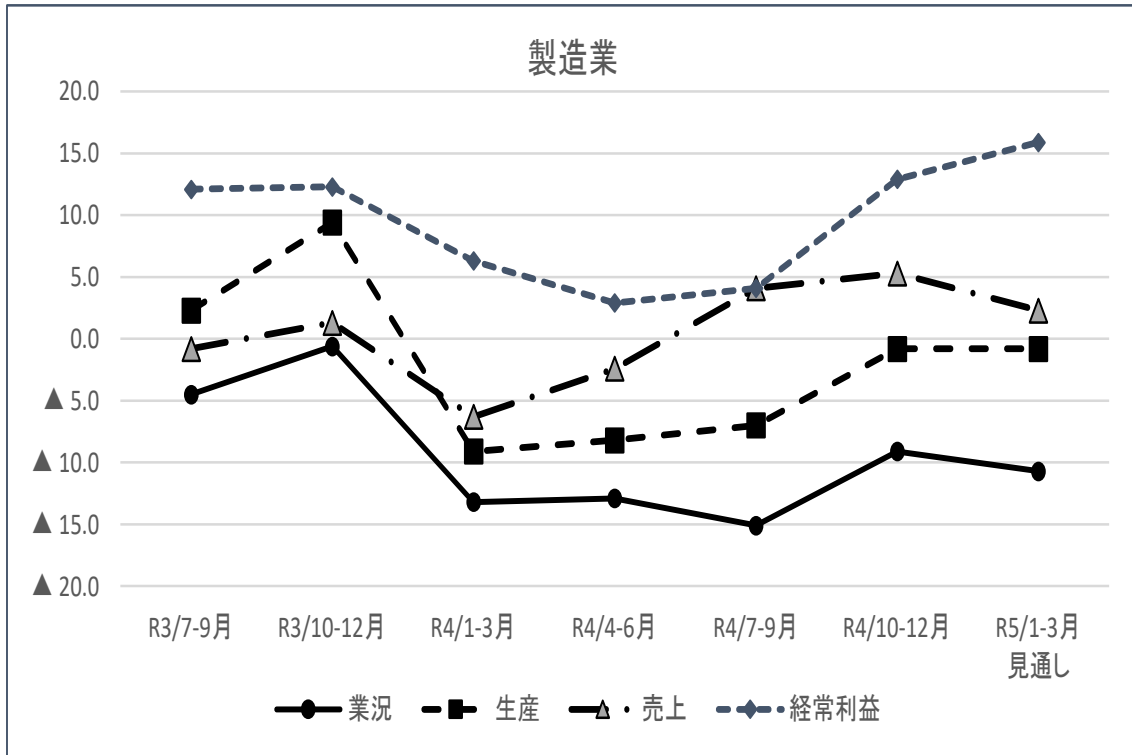


2. 滋賀県の景況

(1) 滋賀県景況調査報告（滋賀県商工政策課編）

① 滋賀県の業種別景況動向

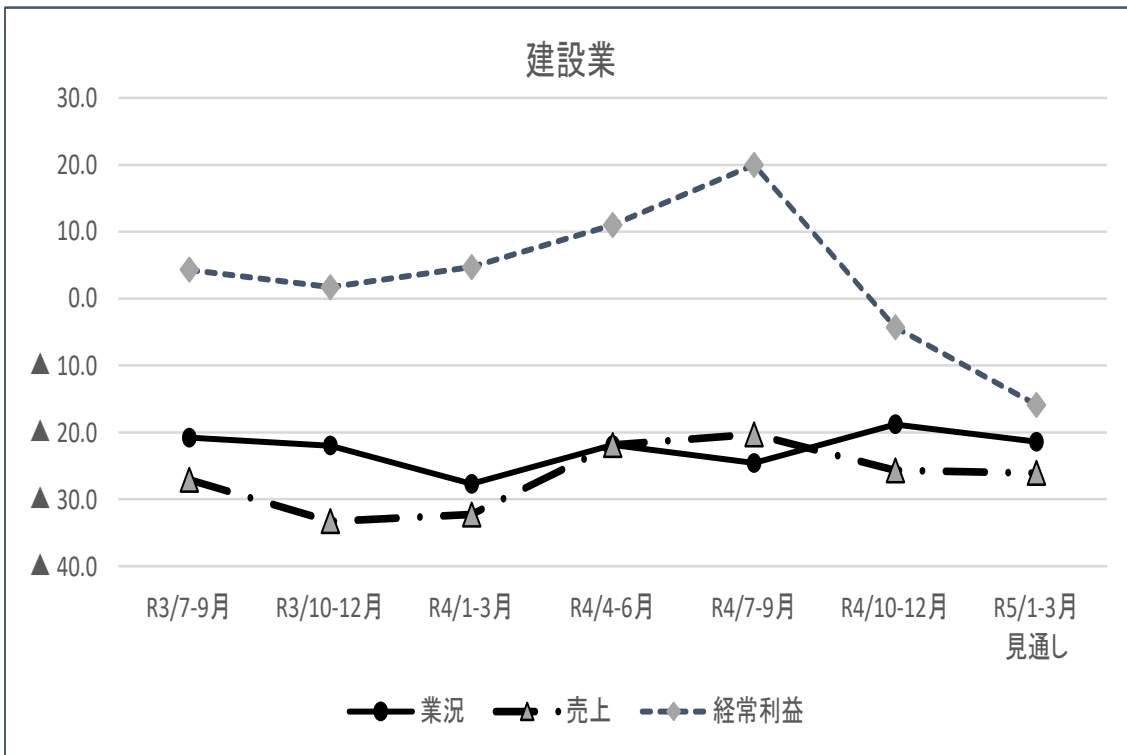
（R4/10-12月実績、R5/1-3月見通し）〔前年同期比較〕



製造業	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月	R4/10-12月	R5/1-3月見通し
業況	▲ 4.5	▲ 0.6	▲ 13.2	▲ 12.9	▲ 15.1	▲ 9.1	▲ 10.7
生産	2.3	9.4	▲ 9.1	▲ 8.2	▲ 7.0	▲ 0.8	▲ 0.8
売上	▲ 0.8	1.3	▲ 6.3	▲ 2.4	4.1	5.3	2.3
経常利益	12.1	12.3	6.3	2.9	4.1	12.9	15.9
資金繰り	▲ 4.8	▲ 17.9	▲ 15.3	▲ 17.0	▲ 10.5	▲ 12.2	▲ 7.6
傾向	●	●	×	●	×	●	×
回答社数	132	155	159	171	172	132	132

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

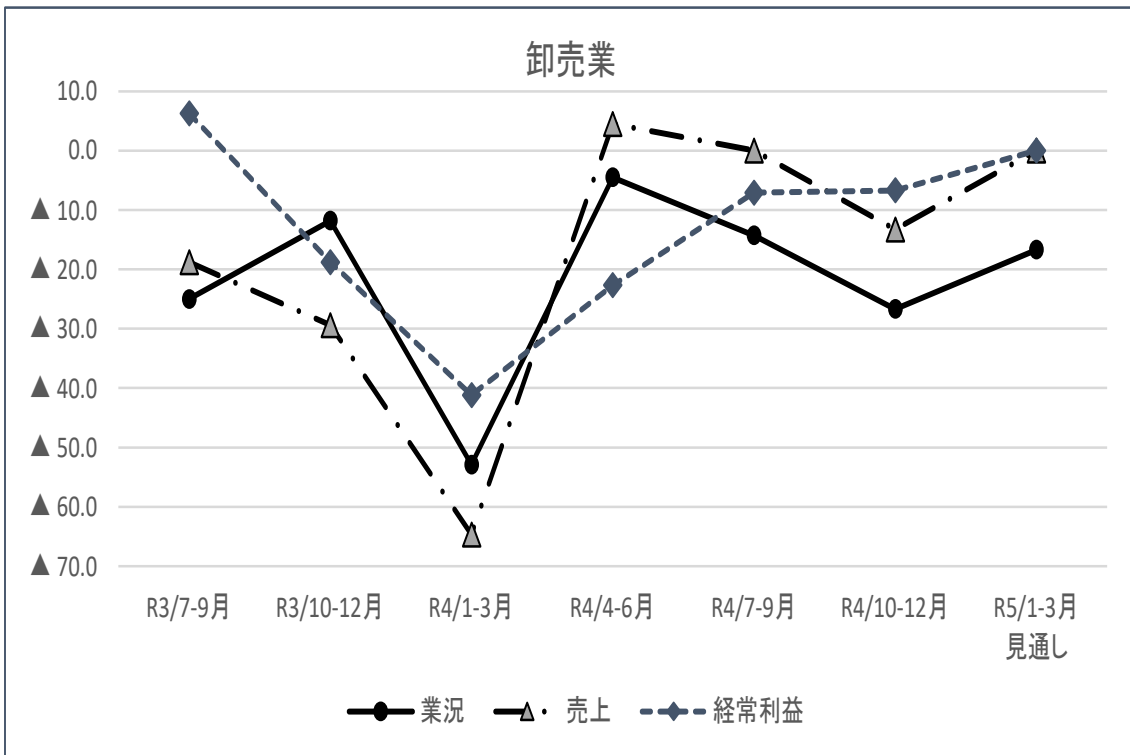
*R4年10-12月期から「資金繰り」（好転-悪化）を追加（表のみ）。



建設業	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月	R4/10-12月	R5/1-3月見通し
業況	▲ 20.8	▲ 22.0	▲ 27.7	▲ 21.9	▲ 24.6	▲ 18.8	▲ 21.4
売上	▲ 27.1	▲ 33.3	▲ 32.3	▲ 21.9	▲ 20.3	▲ 25.7	▲ 26.1
経常利益	4.3	1.7	4.7	11.0	20.0	▲ 4.3	▲ 15.9
資金繰り	▲ 9.1	▲ 16.1	▲ 13.3	▲ 11.0	▲ 2.9	▲ 4.5	▲ 13.4
傾向	●	×	×	●	×	●	×
回答社数	48	61	65	73	70	70	70

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

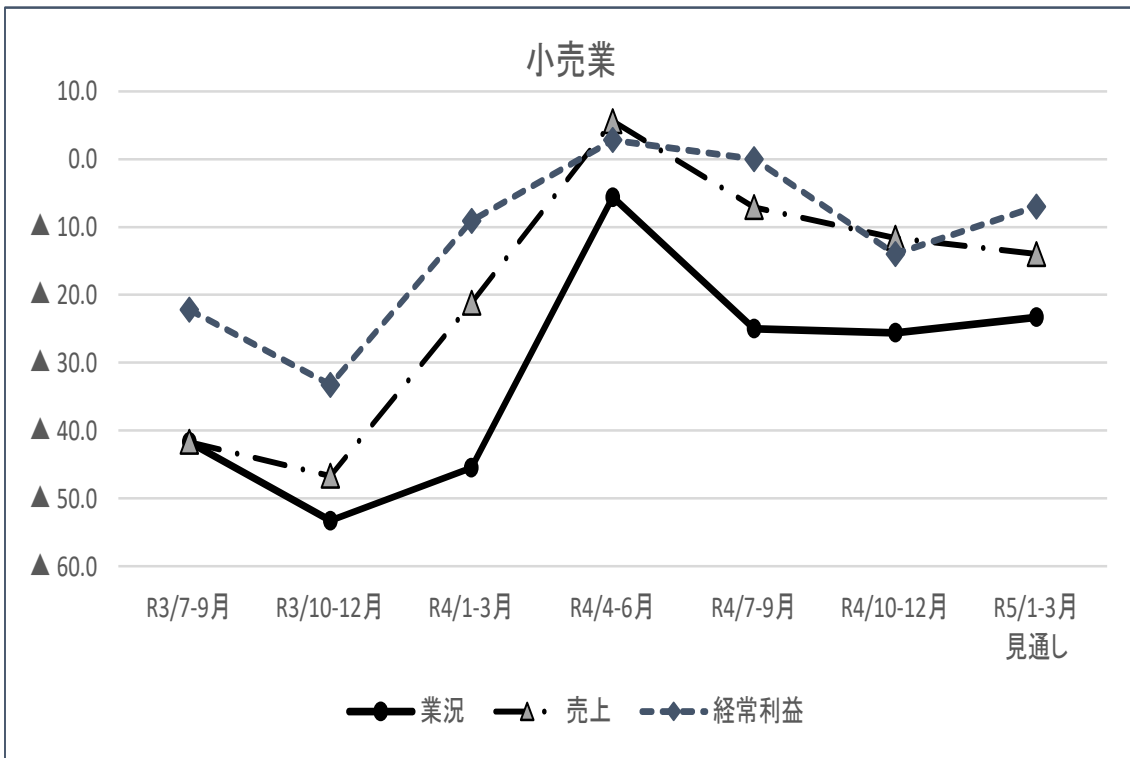
*R4年10-12月期から「資金繰り」(好転-悪化)を追加(表のみ)。



卸売業	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月	R4/10-12月	R5/1-3月 見通し
業況	▲ 25.0	▲ 11.8	▲ 52.9	▲ 4.5	▲ 14.3	▲ 26.7	▲ 16.7
売上	▲ 18.8	▲ 29.4	▲ 64.7	4.5	0.0	▲ 13.3	0.0
経常利益	6.3	▲ 18.8	▲ 41.2	▲ 22.7	▲ 7.1	▲ 6.7	0.0
資金繰り	▲ 25.0	▲ 29.4	▲ 31.3	▲ 9.1	▲ 14.8	▲ 13.3	▲ 20.0
傾向	●	●	×	●	×	×	●
回答社数	16	18	17	22	28	30	30

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

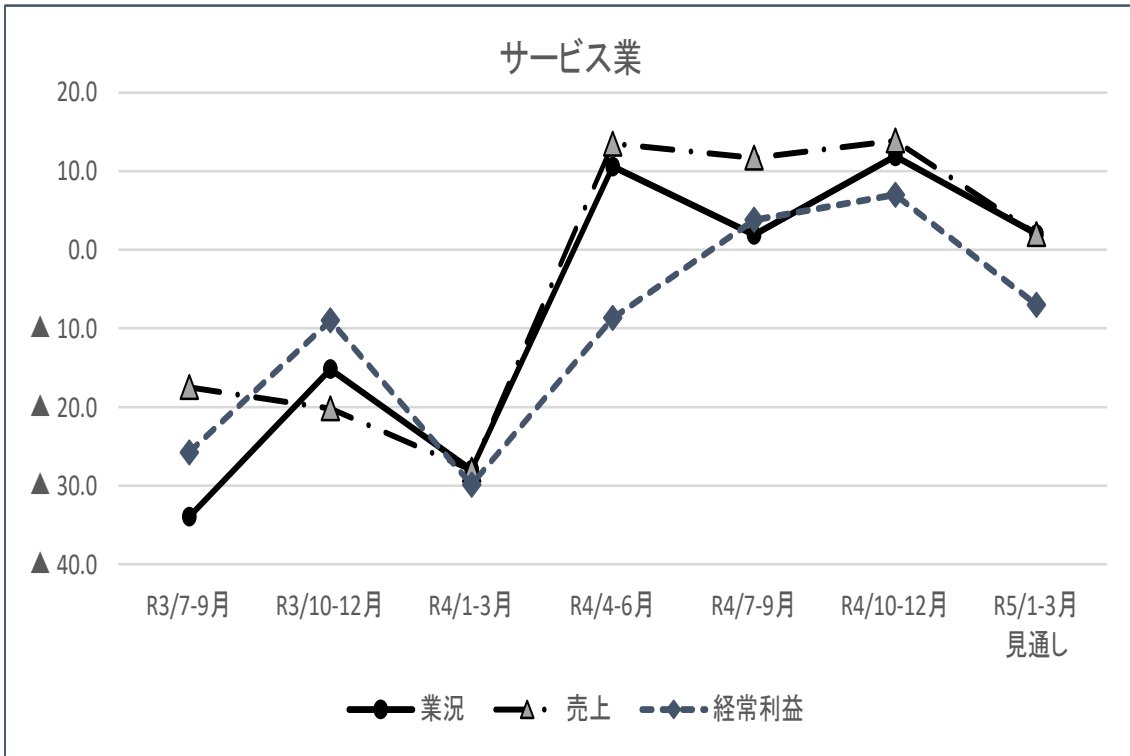
*R4年10-12月期から「資金繰り」(好転-悪化)を追加(表のみ)。



小売業	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月	R4/10-12月	R5/1-3月 見通し
業況	▲ 41.7	▲ 53.3	▲ 45.5	▲ 5.6	▲ 25.0	▲ 25.6	▲ 23.3
売上	▲ 41.7	▲ 46.7	▲ 21.2	5.6	▲ 7.1	▲ 11.6	▲ 14.0
経常利益	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 9.1	2.8	0.0	▲ 14.0	▲ 7.0
資金繰り	▲ 24.2	▲ 32.1	▲ 38.7	▲ 16.7	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 25.6
傾向	×	×	●	●	×	×	●
回答社数	36	30	33	36	28	43	43

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

*R4年10-12月期から「資金繰り」(好転-悪化)を追加(表のみ)。



サービス業	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月	R4/10-12月	R5/1-3月見通し
業況	▲ 34.0	▲ 15.2	▲ 28.0	10.6	1.9	11.9	2.0
売上	▲ 17.5	▲ 20.2	▲ 28.0	13.5	11.7	13.9	2.0
経常利益	▲ 25.8	▲ 9.0	▲ 29.9	▲ 8.7	3.8	7.0	▲ 7.0
資金繰り	▲ 23.1	▲ 17.4	▲ 34.3	▲ 10.7	▲ 6.7	▲ 4.1	▲ 12.2
傾向	×	●	×	●	×	●	×
回答社数	97	101	107	104	104	101	101

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

*R4年10-12月期から「資金繰り」(好転-悪化)を追加(表のみ)。

② 滋賀県の景況調査 [企業から寄せられたコメント]

滋賀県内企業のコメント (R4/10-12月期)
<p>業況判断【好転】企業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国旅行支援により急にお客さまが増えてスタッフが足りない状況。売上は大きく改善（サービス業）。 ・イベントなどの催事による売上の増額、また飲食店からの器の注文の増加などにより売上の改善がみられる（製造業）。 ・全国旅行支援の好影響により、売上が急激に増加と同時に人員が不足している。旅行支援が延長されるか否かで今後の見通しも変わる（サービス業）。 ・旅行クーポンの影響で高需要である。クーポン終了後もコロナの影響がなければ需要は続く見通し（サービス業）。 <p>業況判断【不変】企業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料の高騰により収益減少。人員不足であり、残業時間の削減が課題（建設業）。 ・コロナ禍、ウクライナ情勢により継続的な半導体不足による減産および納期遅延（小売業）。 ・売上は増加傾向であるが、原材料価格の高騰や円安の影響により業績は横ばいの見通し（小売業）。 ・コロナ以前の状況に戻る気配感じず（卸売業）。 ・人材不足による受注調整を余儀なくされている（建設業）。 <p>業況判断【悪化】企業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原油価格の高騰により、売上額は増加するが、採算は悪化。この傾向は来期も続くことが予想される（小売業）。 ・最低賃金上昇分の契約単価が上昇しないと来期も苦しい（サービス業）。 ・円安、ウクライナ情勢などにより原料値上げがかさみ商品の値上げがあり、状況は厳しい（卸売業）。 ・売上が横ばいであるが、人件費と物価の高騰により赤字となる予定。契約金額に高騰分を転嫁出来ない（建設業）。 ・半導体不足により生産減（製造業）。

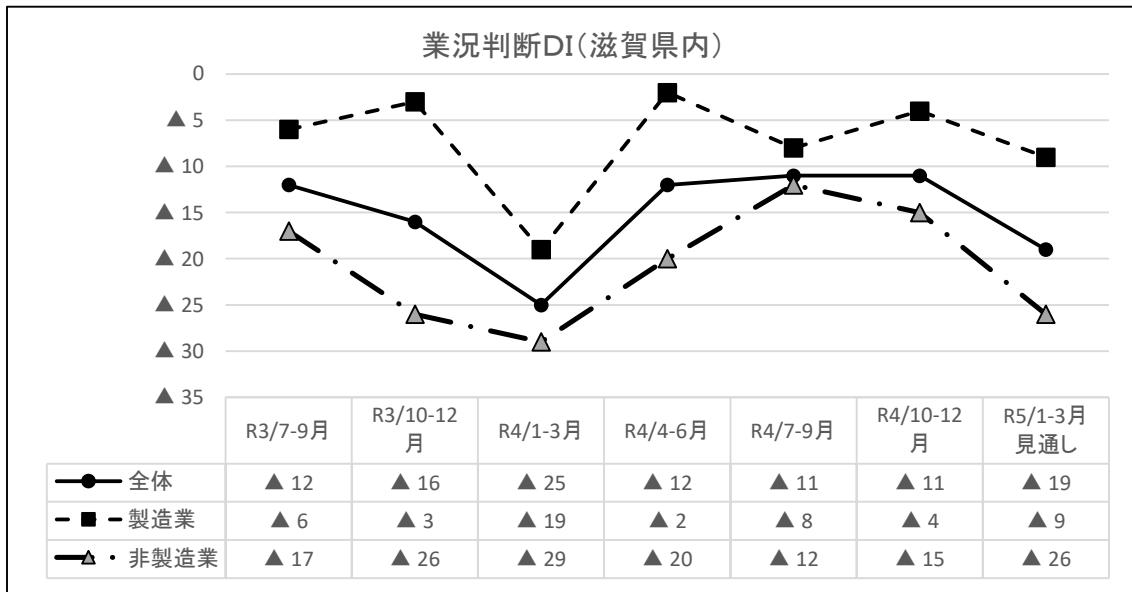
(2) 県内経済概況(株しがぎん経済文化センター編)

① 県内経済概況「概況」(令和4年11月－令和5年1月)

R4/11	緩やかに持ち直している	製造業の生産活動は、緩やかに持ち直している。需要面では、小売業6業態計売上高の増加が続いているが、伸び率は前月から縮小した。投資需要では、公共投資は増加したものの、民間設備投資は減少が続き、住宅投資は給与住宅の特殊要因と貸家の増加に伴い全体では増えているが、持家や分譲住宅の動きは鈍い状況が続いている。したがって県内景気の現状は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。
R4/12	持ち直しの動きがやや弱まっている	製造業の生産活動は、一進一退の動きとなっている。需要面では、小売業6業態計売上高の増加が続いている。投資需要では、民間設備投資は減少が続き、住宅投資は貸家の増加に伴い全体ではほぼ横ばいとなったが、持家や分譲住宅の動きは鈍い状況が続いている。さらに、公共投資も大幅減少となった。したがって県内景気の現状は、持ち直しの動きがやや弱まっているとみられる。
R5/1	緩やかに持ち直している	製造業の生産活動は、一進一退の動きの中で持ち直している。需要面では、小売業6業態計売上高の増加が続いている。投資需要では、民間設備投資は4か月ぶりの大幅増加となったものの、住宅投資は持家の動きが鈍いことから5か月ぶりの減少となり、公共投資も大幅減少が続いている。したがって県内景気の現状は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

※内容は前月データに基づくコメント。

② 県内企業動向調査(R4/10-12月実績、R5/1-3月見通し) [前期比較]



業況判断DIは▲11で、前回から横ばいにとどまる

	回答社数	R4/7-9月	R4/10-12月	傾向	R5/1-3月見通し
製造業	115	▲ 8	▲ 4	●	▲ 9
繊維	7	▲ 64	▲ 29	●	▲ 43
木材・木製品	-	-	-	-	-
紙・パルプ	-	-	-	-	-
化学	11	0	18	●	0
石油・石炭	-	-	-	-	-
窯業・土石	-	-	-	-	-
鉄鋼	-	-	-	-	-
非鉄金属	-	-	-	-	-
食料品	8	13	▲ 13	×	13
金属製品	17	0	0	-	▲ 24
一般機械	10	17	30	●	20
電気機械	-	-	-	-	-
輸送用機械	-	-	-	-	-
精密機械	-	-	-	-	-
その他	26	15	▲ 4	×	15
非製造業	156	▲ 12	▲ 15	×	▲ 26
建設	53	▲ 11	▲ 9	●	▲ 28
不動産	15	8	0	×	▲ 7
卸売	23	▲ 35	▲ 39	×	▲ 52
小売	19	▲ 10	▲ 47	×	▲ 28
運輸・通信	8	▲ 50	▲ 13	●	▲ 25
電気・ガス	-	-	-	-	-
サービス	24	14	8	×	0
リース	-	-	-	-	-
その他	11	▲ 17	9	●	▲ 30

③ 県内経済概況「県内景気天気図」(変化方向)

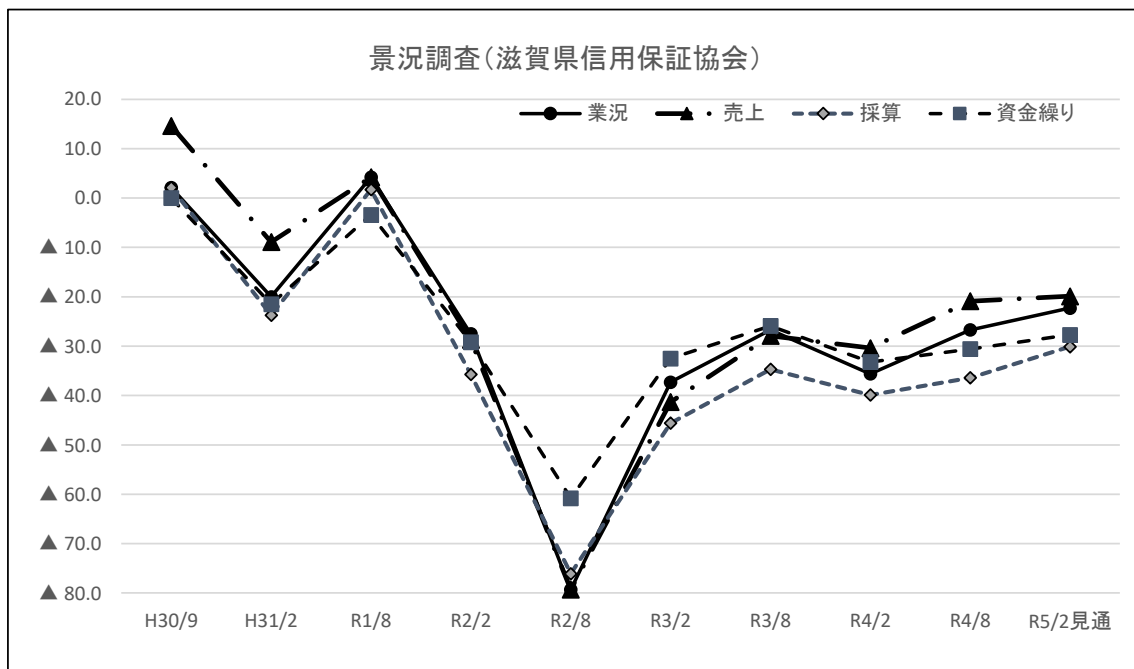
県内景気天気図	R4/7	R4/8	R4/9	R4/10	R4/11	R4/12
現在の景気	●	●	▲	▲	▲	▲
3か月後の景気	▲	▲	▲	▲	▲	●
生産活動	●	●	×	●	×	●
個人消費	●	▲	●	▲	●	●
民間設備投資	●	●	×	×	×	●
住宅投資	×	●	▲	▲	▲	×
公共投資	×	●	×	●	×	×
雇用情勢	●	●	▲	●	●	×

* 変化方向…前月比、●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

(3) 中小企業アンケート結果(滋賀県信用保証協会編)

○景況調査結果 (R4/8)

実施内容	調査時期：令和4年8月		調査方法：無記名アンケート方式	
		配布数： 500	回答数： 206	回答率： 41.2%
業種構成	建設業 26.2%	サービス業 18.0%	製造業 17.0%	
	小売業 12.1%	不動産業 11.7%	運輸通信業 6.8%	
	卸売業 3.4%	その他 2.4%		
従業員規模	5人以下： 50.0%	6～20人： 35.0%	21人以上： 14.6%	



3. 近畿の景況

(1) 地域経済動向（近畿）（内閣府編）

令和4年11月

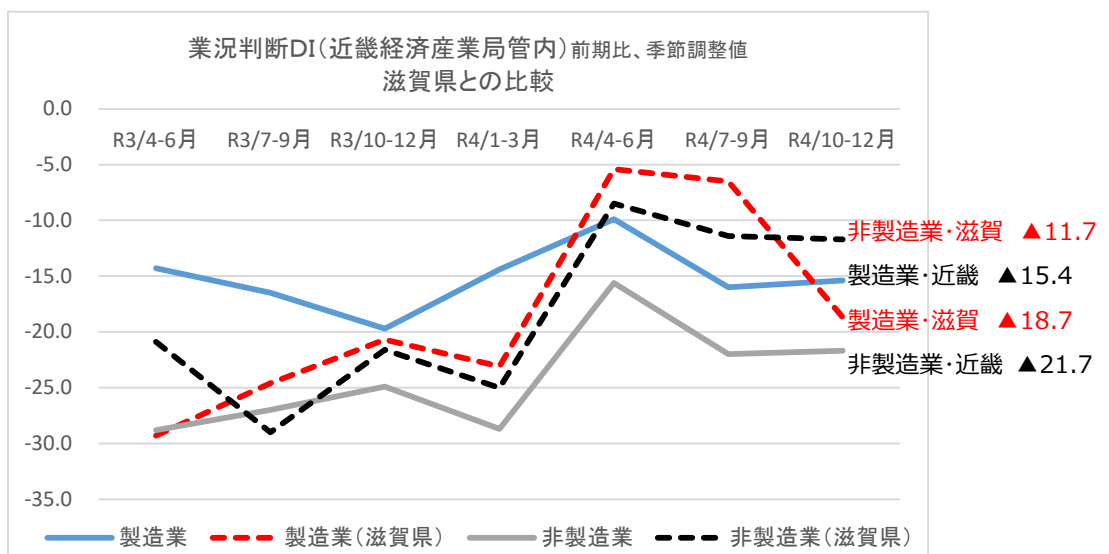
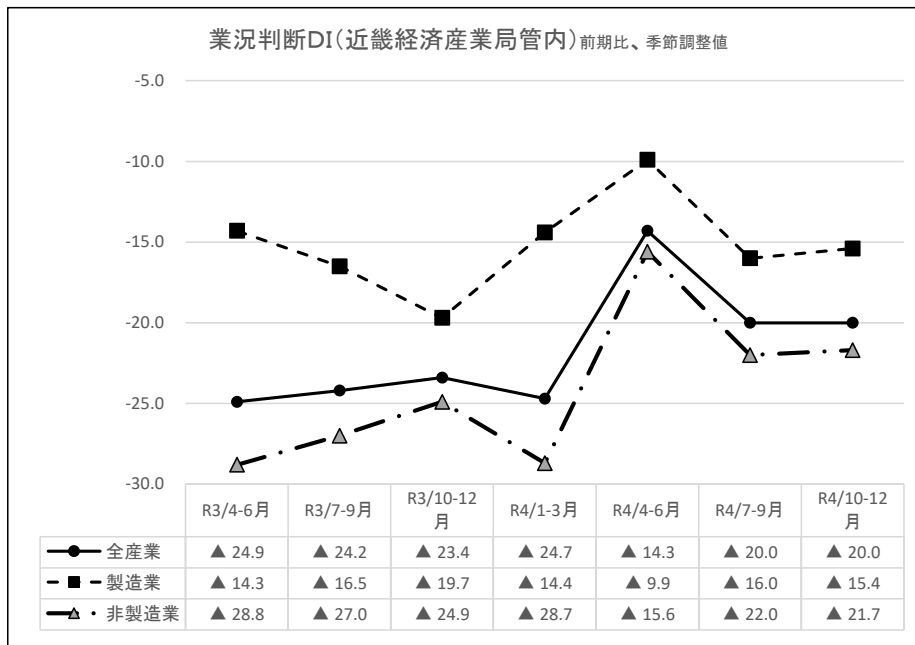
近畿地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(2) 中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構編）

「近畿地域」：業況判断DI [前期比較]

① 業種別業況判断DI



4. 全国の景況

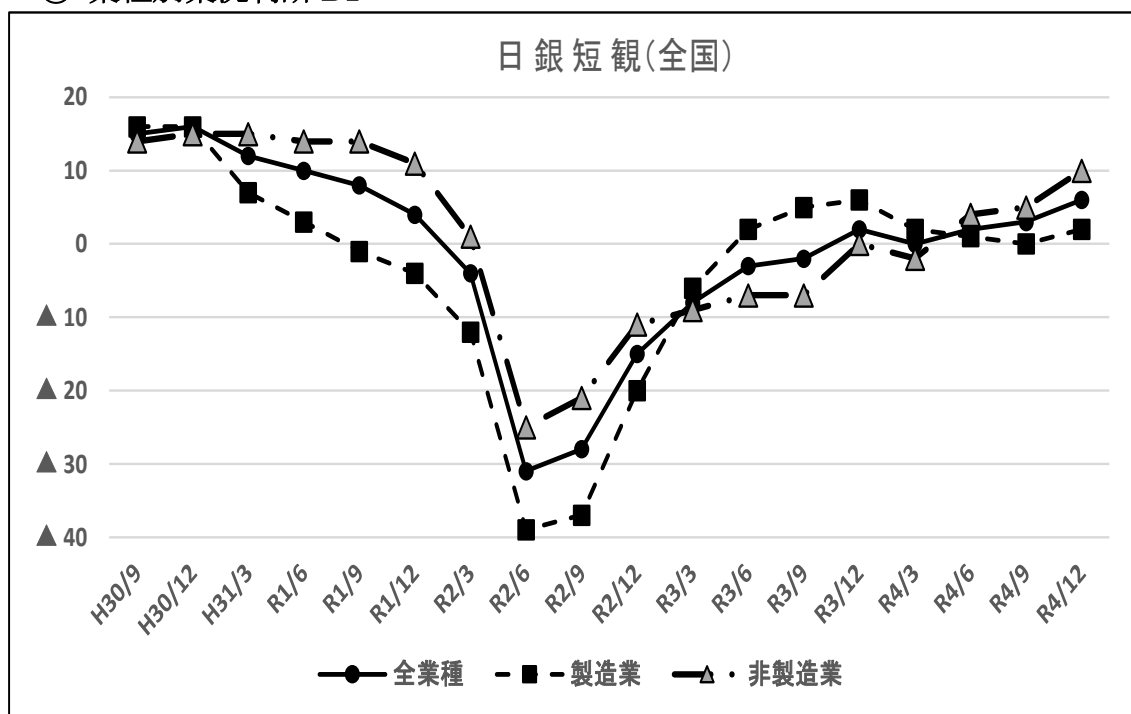
(1) 日銀短観（日本銀行）：業況判断 DI [前期比較]

① 概況

- ・大企業製造業は、前回調査（9月調査）から1ポイント悪化の7となった。多くの業種で輸入コストの増加が利益を圧迫する中、特に素材業種では世界経済の減速による市況の悪化もあり、石油・石炭や化学を中心に前回調査から業況感は悪化した。一方、加工業種の業況感は、前回調査から改善した。パソコンやスマホ需要の落ち込みを受けて半導体や電子部品の生産にブレーキが掛かっている電気機械の業況感は悪化したものの、堅調な輸出や国内での設備投資需要の持ち直しに支えられて、はん用機械や業務用機械等の資本財の業況感は堅調を維持したほか、半導体等の部品不足の影響が徐々に緩和へ向かっている自動車の業況感も小幅ながら改善した。
- ・大企業非製造業は、コロナ禍の景気への下押し圧力が弱まる中、前回調査から5ポイント改善の19と、コロナ前に近い水準まで回復した。政府による旅行支援策や新型コロナの水際対策の緩和もあり、宿泊・飲食サービスや、旅行業や娯楽業が含まれる対個人サービスの業況感が大幅に改善した。
- ・中小企業の業況判断 DI（最近）は、製造業では前回から2ポイント改善の-2、非製造業では4ポイント改善の6となった。製造業は大企業が悪化する中でも改善し、非製造業も大企業並みの改善幅となった。引き続き輸入コストの増加が業績の重しとなっているものの、国内景気が緩やかに持ち直していることが業況感の改善につながっていると考えられる。

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「経済レポート」(2022年12月14日)より）

② 業種別業況判断 DI



③ 設備投資計画（含む土地投資額）

大企業の設備投資計画（含む土地投資額）は、製造業では前年比+21.1%、非製造業では同+18.0%と、例年の修正パターン通り、製造業、非製造業ともに前回調査からは下方修正されたものの、ともに高めの増加計画が維持された。

また、中小企業の設備投資計画も例年の修正パターン通り前回調査から上方修正され、製造業では前年比+11.0%、非製造業では同+0.1%と、ともに増加計画となった。国内景気や企業業績の持ち直しを背景に、企業の投資意欲は堅調を維持している。

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「経済レポート」(2022年12月14日)より抜粋）

中小企業では、製造業で土地投資が上昇しソフトウェア投資が大企業を上回っており、非製造業でソフトウェア投資が増加、研究開発投資が依然として高い。

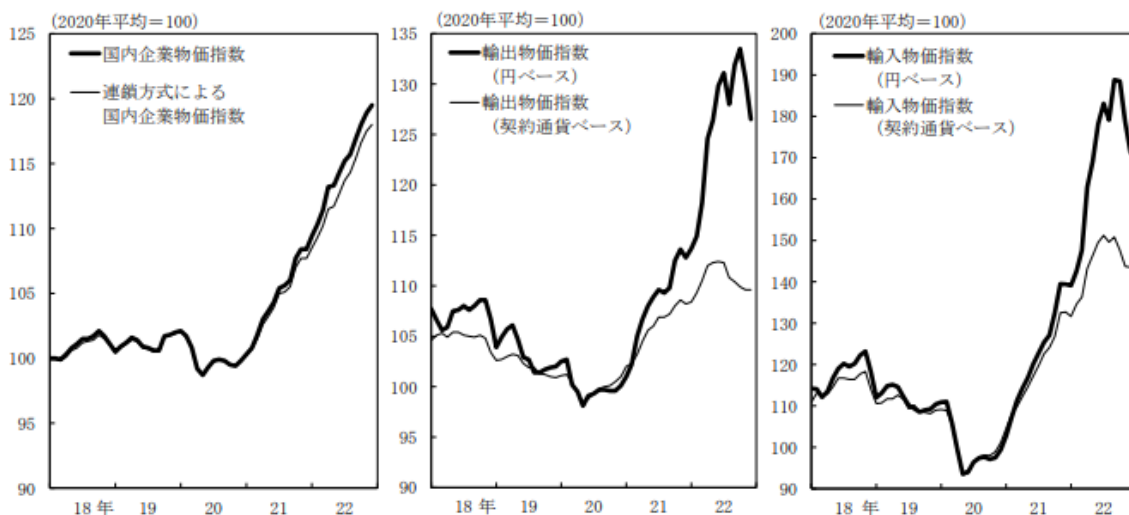
設備投資計画 (含む土地投資)		2021年度	2022年度 (計画)				ソフトウェア投資額	2021年度	2022年度 (計画)				
		(実績)	3月調査	6月調査	9月調査	12月調査		(実績)	3月調査	6月調査	9月調査	12月調査	
大企業	製造業	-0.5	8.4	21.5	22.0	21.1	大企業	製造業	8.7	9.5	22.5	21.1	21.0
	非製造業	-3.3	-1.6	16.8	21.2	18.0		非製造業	6.4	3.4	8.5	14.4	14.6
中小企業	製造業	6.8	-1.0	4.8	8.6	11.0	中小企業	製造業	24.1	23.6	25.0	30.4	26.5
	非製造業	5.9	-16.9	-4.6	-2.4	0.1		非製造業	28.3	-1.4	6.5	6.5	11.6

* 含む土地投資額、除くソフトウェア投資額及び研究開発投資額

土地投資額		2021年度	2022年度 (計画)				研究開発投資額	2021年度	2022年度 (計画)				
		(実績)	3月調査	6月調査	9月調査	12月調査		(実績)	3月調査	6月調査	9月調査	12月調査	
大企業	製造業	16.0	-29.4	-37.9	-31.4	-26.4	大企業	製造業	4.4	2.3	6.0	7.0	9.0
	非製造業	-19.7	-15.0	24.1	34.7	24.1		非製造業	-5.8	2.0	7.1	10.9	10.6
中小企業	製造業	8.4	-57.2	-38.2	-4.0	12.0	中小企業	製造業	1.9	8.3	10.4	8.0	8.7
	非製造業	25.8	-30.3	-26.5	-27.4	-12.9		非製造業	9.7	37.7	58.5	56.9	58.2

④ 企業物価指数（2022年12月速報）

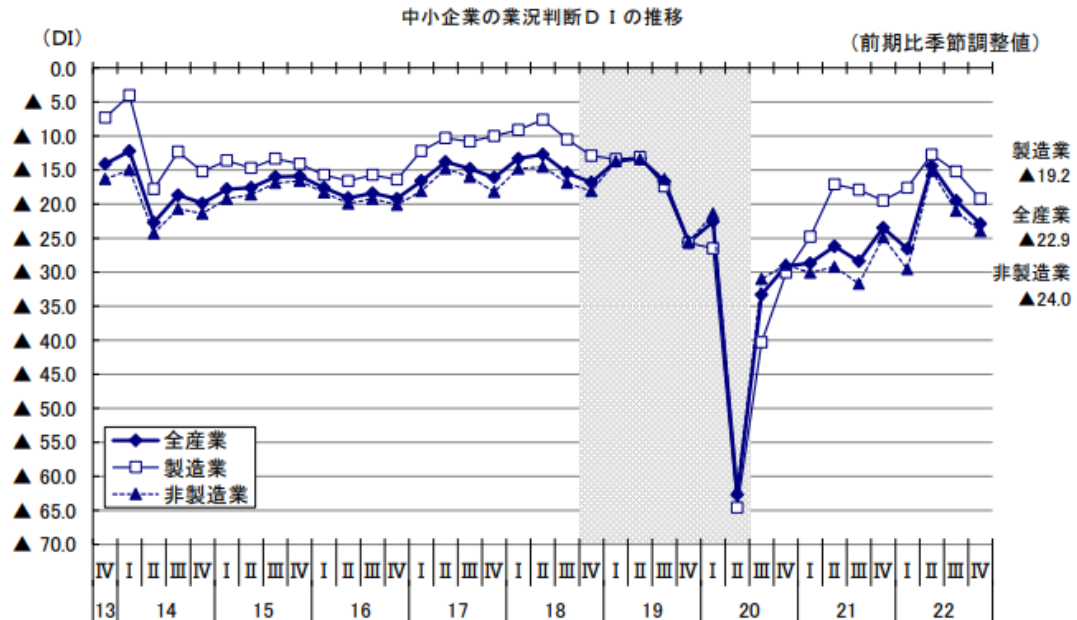
12月の企業物価指数は119.5で統計開始の1960年以降最高、前年比は10.2%でプラスは22カ月連続。円安に歯止めがかかり輸入物価の上昇が鈍化し3カ月連続で下落した。国内企業物価指数は高騰した資源価格を転嫁する動きが幅広く見られるため上昇している。



(2) 中小企業景況調査 (中小企業基盤整備機構編) 「全国」 [前期比較]

①業種別業況判断DI

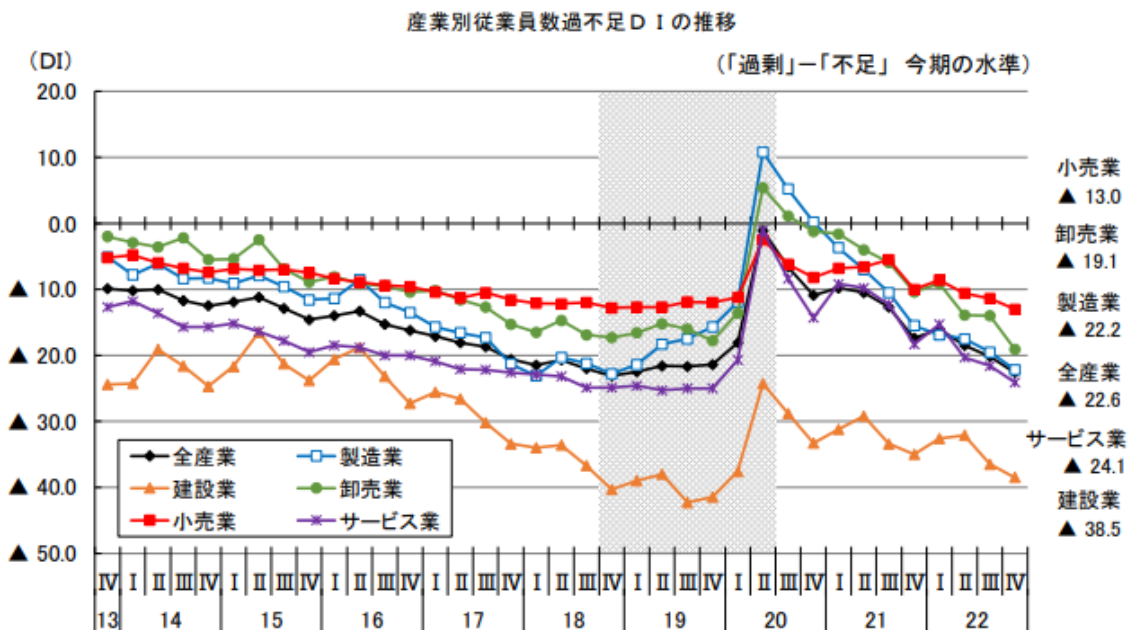
全産業の業況判断DIは▲22.9 (前期差 3.4 増減) となり 2 期連続してマイナス幅が拡大した。製造業は▲19.2 (同 4.0 増減)、非製造業は▲24.0 (同 3.0 増減) と両業種とも 2 期連続してマイナス幅が拡大した。



(注) シャドー部分は景気後退期

②トピックス：産業別従業員数過不足DI (今期の水準) の推移

全産業の従業員数過不足DI (「過剰」-「不足」、今期の水準)は▲22.6 (前期差 2.4 増減) と 3 期連続してマイナス幅が拡大し不足感が強まった。卸売業、製造業、サービス業、建設業、小売業の全ての産業でマイナス幅が拡大した。



(中小企業診断士 川副 郷一郎)